

# Viva Kango

No.49

Campus News of Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1 TEL (0157) 66-3311 FAX (0157) 61-3125  
mail to:kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp http://www.rchokkaido-cn.ac.jp

発行日/2019年3月12日  
編集・発行/広報委員会



日本赤十字北海道看護大学

平成11年4月、日本赤十字北海道看護大学が開学し、平成31年は開学20年目を迎えます。本学学部卒業生は、第17期生の平成30年度卒業生101名を加え、1,758名となり、また大学院生も111名が修了しました。卒業生、修了生は全国各地でご活躍されているとともに、広く海外においても国際救援等の業務に従事されております。平成31年のVivaKangoは、開学20年記念と題し、これまでの歩みと卒業生のご活躍を特集していきます。



建設を開始したばかりでまだ更地の日本赤十字北海道看護大学  
(平成9年9月)



雪の中で建設が進む工事現場  
(手前が講義演習棟)



講義演習棟全体の足場が組まれた現場



総合玄関から図書館側で進む工事





ピカピカの図書館外観と研究棟



完成した校舎



上空から見た校舎全景

### 学生時代の思いと今

看護学部 看護学科 一期生

旭川赤十字病院

HCU/救急外来

新谷 将一

高校卒業後、札幌で二年間浪人をしていた時、父より「これ以上の浪人は認めない。適当な大学に行ったところで就職がないから、今年からできる看護大学はどうだ」と言われたのが看護師をしている最初の理由。就職氷河期と言われているこの時代、これ以上のわがままは言えるわけもなく致し方ない選択でした。この微妙な志望動機は結構大変でした。

他の同期は年齢が幅広いものの、やる気に満ちた方々ばかり。入学式にはTV局のカメラ、自分自身の心境とのギャップに困惑し、式終了後そのまま近くのパチンコ店に直行したことを覚えています。

在学中はバイト三昧の日々を送りました。練成会講師と某喫茶店で働くこと週7日。免許が取れたら良いと考えていたので、落第しないよう気を付けて両立させていたと思います。周囲から浮いていたこともあり、ある教



授に呼び出され「看護師になる気はあるの？ やめてやり直すなら今よ」と言われたこともありましたが、真剣みのない不真面目すぎる自分は受け入れられなかったのだと思います。

看護師免許を取得した後、旭川赤十字病院脳神経外科病棟に勤務しました。初の大学出身者という周囲の目は厳しく手痛い指導を受けながら三年が経過。辞職も考えましたが踏みとどまり、三年後、HCU/CCUに異動。この異動が看護師としての転機だったと思います。目まぐるしく変化していく病態を見ること、後追いにならないようアクセスメントし続けること、看護師としてできることなど、初めて楽しいと感じました。

HCUを六年間経験した後、初療を学びたくなりERに移動。フライトナースを目指し、更に二年間手術室を経験。再度ERに戻った後、OJTを行い何とかフライトナースを取得。現在、手探りの中空を飛び回らせていただいています。

今の自分は偶然の産物です。二十歳のあのタイミングで大学が設立されていなければ、親父の一声がなければなど、偶然が重なって今の自分があります。就職のために看護師を選んだ自分が、今はフライトナースだなんて人生はどうなるかわかりませんね。



看護学部 看護学科 二期生  
仁愛会 浦添総合病院 一般外来  
がん化学療法看護認定看護師

國 吉 洋 子  
(旧姓 小建)

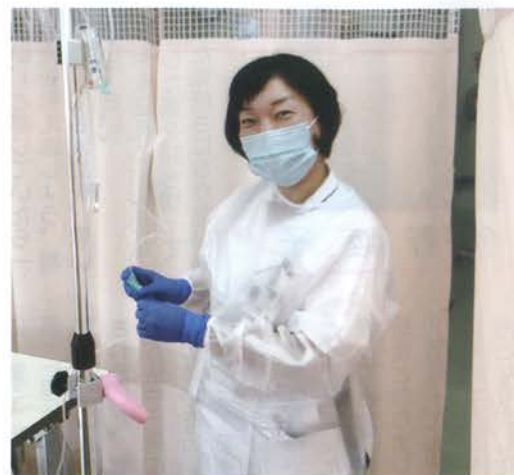
私は北海道の病院で七年間勤務し、縁があり沖縄県に移住し、現在も看護師を続けています。昔からおしゃべりが大好きで、人と関わる仕事がたく看護師を目指しました。

学生時代の私はというと、文章を書くことやじっくり考えることが苦手で、実習ではアセスメントの壁にぶち当たり、看護過程に悩み看護師という夢をあきらめなくなったこともありました。基礎看護学の先生に「向いていないからやめたい。」と話したところ、「向いていないか向いていないかは、十年経ってみないとわからない。今判断することではない。」と言われ、十年経って本当に向いていなかったらどうしようと思いつつも、今どうこう悩むより、まずは必死に頑張ってみようと思ったことを覚えています。

現在の施設に入職するときは、少し看護師の仕事に疲れていた時期でしたが、「患者と向



(右端が國吉さん)



き合える看護がしたい」という気持ちを話したところ、これまでの経験を踏まえ、外来化学療法室（抗がん剤治療室）での勤務を勧められました。

抗がん剤治療は副作用が辛いです。患者にとって希望でもありません。患者が、その人らしく過ごせるように、私にできることがもっとあるのではないかと思います。がん化学療法看護認定看護師になりました。

現在も持ち前のおしゃべり力で、病棟の看護師や医師、薬剤師など多職種とともに楽しく仕事をしています。どんなにケアをしても苦しむ患者がいることや長年関わった患者との別れなど辛いこともあります。患者や家族から日々たくさんのお話を聞いています。今になってみれば、学生時代の私に「向いていないこともなかったよ。」と言ってあげたいです。

学生時代の友人との交流は今も続いていて、うれしいことに沖縄まで会いに来てくれたりもします。遠く離れていても、共に学び、ともに笑い転げた仲間が本当に大切です。学生の皆さま、とっても貴重な学生生活を思う存分学び、楽しんでください。

看護学部 看護学科 三期生  
北見赤十字病院 六階西病棟  
看護師

氏 江 修 一

皆さんこんにちは。日本赤十字北海道看護大学三期生の氏江です。本学を卒業後、北見赤十字病院で看護師として働き、気づけば今年で十五年目となりました。実習で六階西病棟に来た学生さんの中には見覚えのある人もいるかもしれませんね。

私はこれまで三回の病棟異動を経験し、現在では新人看護師教育の担当など様々な役割を担っていますが、今回のテーマを聞いて学生だった頃の自分を思い出しました。

学生時代の私は、決して褒められる成績や授業態度ではありませんでした。国家試験の結果が発表されるまで、先生方はもちろん同級生にまで心配されていた程です。そんな私でしたが、患者さんと関わる実習だけは真剣に取り組んでいた記憶があります。ただ、毎朝実習先で「今日もよろしくお願いします！」と大きな声で挨拶してはいましたが、空回りしてしまうことの方が多く、反省する毎日です。



(後列中央が氏江さん)



した。当時は記録量の多さから睡眠不足に陥り、カンファレンス中睡魔に襲われることも多々ありました。また、臨床指導者や先生に具体的な報告ができないことや、患者さんともなかなかコミュニケーションがとれないことに悩みました。しかし臨床指導者や先生、そして同じ実習グループのメンバーたちに支えられ、何とか実習を乗り越えることができました。当時の実習先やそこでの出来事、先生や臨床指導者から受けた指導は今でも鮮明に覚えています。そのとき得た学びが、大いに私を成長させてくれました。

今では私が臨床指導者となり、学生の皆さんを指導する立場となりました。看護師として、いち社会人として皆さんのお手本となれるよう、学生時代の悩みを思い出しながら指導に携わっています。朝、皆さんの元気な挨拶を聞くと、かつて皆さんと同じように挨拶していた自分を思い出して、元気がでます。若かった頃の、フレッシュな挨拶や気持ちだけは今でも忘れないようにしたいですね。皆さんも仲間と支えあいながら頑張ってください。心から応援しています。



## 学生相談室より

こんにちは、学生相談を担当させていただきます。普段は北見赤十字病院で臨床心理士として勤務しています。月一回、夜十八時〜二十時の時間に相談室を開いています。夜の方が時間を取りやすい方、是非気軽にお越しください。

日々生活していく中で、自分はずまくやれている、メンタル面での心配はないと思われる方も多いかと思えます。私も仕事柄、大概のことはコントロールできていると感じています。しかし先日から色々な事が重なり、プレッシャーもあり、とうとう不調を感じるようになりました。気がつけばそのことばかり考えている、夢に見る、そして最後は胃痛腹痛などを感じるようになりました。「これはまずい!」とまず問題を解決できるものは取り組み、気持ち切り替え、休養を心掛けました。意外と自分も繊細だなと感じた瞬間です。(ちなみに今は元気です)。皆さんもこんなことが起こったら、是非相談に寄ってみてください。今起こっていることが何なのか、また解決策があるか一緒に考えましょう。



澤田 和美



今野 睦子

厳しい寒さもようやく和らぎ、日増しに暖かさを感じる頃となりました。

私事ですが両親が逝って何かとお寺が近くなり、何時かの法話では葛藤(かっとう)について話されていました。

仏教では、蔓(つる)が生い茂り絡み合いもつれ合い、解くことが出来ない様を、人の悩みになぞらえ「煩惱(ぼんのう)の譬(たとえ)に使われるそうです。

禅宗では無意味で煩瑣(はんざ)な詮索(せんさく)のことに譬(たとえ)える「自縛(じばく)自縛(じばく)という言葉もあるそうです。これは自分自身の縛(ゆわ)り、つまり自身の思いによって、自身を縛(ゆわ)りつけ、身動きが取れなくなることを言っています。

このお話を聴き、人とは本当に面倒な生き物だな、蔓も縄も多かれ少なかれ、身のまわりにあるように思いました。もしも、貴方にマイナス思考が絡みつき、身動きが取れずうまく動けない、と感じていたら一緒に振り払う術を考えましょう。相談日は予約が無くても大丈夫、思い立ったらお越し下さい。

今年(今年)は新元号を迎える節目の年、自身が生み出した蔓を断ち切つて、すっきりとした気持ちになりたいものです。

## JICA草の根技術協力事業

本学は、独立行政法人国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業「モンゴル国生活習慣病予防と患者のセルフケア能力向上のための看護職人材育成事業」に参加しており、本学教員をモンゴル国に派遣する専門家派遣、モンゴル人医師・看護師を本学に受け入れる研修を実施しています。今年度の研修は十一月に行い、本学教員らによる講義、運動の実技指導、調理実習などを通じて、高血圧予防に必要な知識・技術を学びました。さらに、学生有志との情報交換会では、両国の保健統計(高齢化率、疾病の状況など)を発表し合い、学生からは「日本の状況と全然違つことがわかった」「楽しく交流できた」との感想がありました。次年度も同様の活動を行う予定です。

## アジア国際子ども映画祭

二〇一八年十一月二十二日(木)に、第十一回アジア国際子ども映画祭」に伴う学校交流で、インドネシアやモンゴルの中高生十八名が来学されました。看護体験では、手洗いの方法や三角巾の使用法や赤ちゃんの沐浴を行いました。日本文化の体験では、お抹茶・お干菓子にチャレンジしました。中学生への説明は本学学生が行い、楽しく交流することができました。二〇一五年から実施してきたこの学校交流は、今回で最後となりました。本学学生とアジア国際子ども映画祭に参加するために来日された皆様双方の楽しい思い出となりましたら幸いです。



## 保護者会

今年度の保護者会は、二〇一八年十月二十八日(日)に開催し、六十三組(八十七名)の参加がありました。当日は、学長挨拶、後援会会長挨拶に行いました。後半の個別面談について、保護者と担任が直接話し、相談できるようにしました。終了後のアンケートによると、保護者会全般では、「大変満足した」と「満足した」を合わせると、全体の六九・三%が満足したとの回答でした。また「担任と直接話しができて良かった。」などの感想をいただきました。

